

令和5年度 認定こども園むつみ幼稚園 施設評価

保護者向けアンケートの結果を受けて

- ・アンケート結果では今年度もおおむねA・Bの評価をいただいた。個別の課題（「保護者向けアンケート回答中の感想、要望」参照）に関しては、今後の検討を経て可能なものから改善に努めたい。尚、今年度はコロナ禍が収束に向かったこととともなって園児の活動・行事が徐々に以前の形に戻りつつある中で、衛生面に配慮した園内環境の整備や保育参観、運動会、音楽・お遊戯会開催等、概ね安全・安心な園生活の継続と家庭への情報提供の両立を着実に進めることができた。この点に関しても多くの保護者から評価をいただけたと感じている。一方で、多様な観点から複数のご指摘やご要望が寄せられたことを受け止め、今後、園からの積極的な情報発信や伝達手段の改善・工夫に努めてまいりたい。
- ・新型コロナウイルス感染症に関しては、園内での感染拡大予防策の継続に加えて各家庭のご協力のおかげもあり、逼迫した感染拡大をみることなく状況が推移した。園児達の安全を優先した運営に多くの励ましや賛同の声をお寄せいただいたことは、今年度も全教職員にとって日々の教育・保育業務における大きな心の支えとなってきた。
- ・令和6年元日の能登半島地震発災は、凶らずも年間を通して定期的にも実施してきた避難訓練の重要性を再認識する機会となった。全職員が改めて気を引き締めると同時に、今後も保育時における様々な災害発生を想定した訓練の実施と振り返りを丁寧に重ねてまいりたい。
- ・保育内容については、本園の教育・保育活動へのご理解とご協力をいただき、深く感謝している。これまでコロナ禍の制限がある中でも工夫を重ね、「子どもの10の姿」を踏まえて「頑張った!」という達成感や自信につながる豊かな体験、一人一人の育ちを認める教育・保育活動の実践に努めてきた。今後とも、教育方針等について説明を丁寧に行った上で諸活動を進めていきたい。
- ・以前に要望があった本園ホームページの運用に関して、園児の様子や行事等の画像アップ、写真購入等を導入し、好評をいただいている。引き続き情報発信の充実を進めたい。
- ・多様なご要望の全てに応えることはなかなか難しいが、寄せられた意見を踏まえ、さらなる教育・保育活動の充実を進めてまいりたい。

園の教育及び保育活動についての保護者向けアンケート [結果一覧]

R6年3月 実施

日頃より、本園の活動にご理解いただき、ありがとうございます。

【回答 106/119】

本園では、保護者の皆様からのご意見を伺いながら、よりよい園作りを目指して計画を進めているところです。つきましては、一年を振り返り、次の事項について、当てはまる欄に○印をつけてください。

アンケートにつきましては、ご回答いただきました内容を十分に検討した上で、来年の計画に生かしていきたいと思っております。

- A…よく当てはまる B…やや当てはまる C…あまり当てはまらない
D…まったく当てはまらない E…よくわからない

	評価の観点	A	B	C	D	E
1	本園は園日より「むつみ」で保育のねらいを伝えています。	75	28	2		1
2	本園は、幼児が豊かな経験ができるよう特色ある活動を行っています。	74	30	1		1
3	本園は、幼児が安定した気持ちで生活できるよう配慮しています。	61	39	1	1	4
4	本園は、基本的な生活習慣が身に付くよう、働きかけをしています。	82	23	1		
5	本園は、安全や、健康、清潔に過ごせるよう配慮しています。	69	35	1		1
6	先生は、幼児のことを理解しながら、指導しています。	67	37	1	1	
7	幼児は、園で遊ぶことを楽しみにしています。	66	37	3		
8	幼児は、いろいろな生活経験や、友だちとのかわりから、興味・関心が広がってきています。	77	29			
9	保護者は、家庭での子どもとの触れ合いを大切にしています。	69	37			
10	保護者は、子どもの健康を配慮し、園に登園させています。	78	27	1		
11	学年だよりから園での生活や様子がわかります。	38	54	12	1	1
12	園生活を通して、子どもの成長を感じています。	88	17			
		無回答 1				
13	保護者は、子育て支援活動のこにこキッズルームについて知っており、それを地域の人に伝えています。	16	28	45	10	7

令和5年度 園評価

<感想>

- ◎先生方のおかげで、心も体も大きく成長できて、むつみ幼稚園に通わせて、本当によかった。
- ◎いつも先生方が優しく楽しく接して下さるので、安心して預けられ、感謝している。
- ◎朝、いつも「おはよう」と先生が子どもをギュッとして下さるのが、大切にしてもらっていることが伝わり、とても嬉しい。園に通い始めて、できることが増え、成長を感じている。
- ◎子どもの特性を理解して子どもに合った援助をしていただき、いつも感謝している。
- ◎3年間、温かく見守りご指導いただき、感謝している。
- ◎兄弟で長年通った園生活は、子どもにとっても、親にとっても、大切な宝物のような時間だった。
- ◎園で安定して過ごせているので、家庭でも安定して過ごせている。
- ◎トイレトレーニングを積極的に進めていただいて、助かった。
- ◎子どもの気持ちに配慮しながら、いろいろなことを体験したり、難しいことにチャレンジしたりする機会をたくさん作っていただき、幼児期に素晴らしい経験をさせてもらい、有り難い。
- ◎園生活で、様々な体験をしていて、本当に感謝している。「家でもやってみたい!」「一緒にしよう!」と家庭での遊びが広がり、自信に繋がっているのも、今後も、いろいろなことにチャレンジする機会があるとよいと思う。
- ◎行事を通して、成長した姿を見て、近くで感じられるのが、嬉しかった。
- ◎マーチングや運動会、お遊戯会等の行事で、今年の年長さんを見て憧れていたことに挑戦して、たくさんの楽しい体験ができてとても喜んでいました。

【運動会】

- ・縄跳びで、先生のアドバイスを受けて上達し、本番では一度も止まることなく跳ぶことができた。その子に合った指導をしていただき、感謝している。
- ・「かけっこ」の順番を覚えてもらったのが、嬉しかった。

【お遊戯会】

- ・完成度が高く、とても見応えがあり感動したので、地域の人にも、もっと見てもらう機会があるとよいと思う。
- ・悪天候だったが、早めに玄関を開放していただいてよかった。
- ・小学生低学年だけで座っている家庭があり、静かに見ることができなかった。

【保育参観】

- ・園での普段の子どもの様子を見ることができてよかった。
- ・家庭とは違う表情や過ごし方を見て、嬉しい気持ちになった。
- ・親も参加でき、楽しかった。
- ・ステージ発表を積極的にやってほしい。

【お茶会】

- ・お茶の先生の言葉やおいしいお茶に心が温かくなり、素晴らしい取り組みだと感じた。

- ◎どの行事も、参加しやすく工夫していると感じる。
- ◎行事の人数制限もなくなり、祖父母も見に来られてよかった。
- ◎先生方の仕事の量を減らすためにも、行事は簡易にしていけばいいと感じている。保護者の方々も働いている人が多く、行事の手伝いに参加する方も大人数は望めないと思うので、子どもが楽しく園生活を送るためにも、時代に合ったやり方を見直していくのもよいのではないかなと思う。
- ◎園行事がもっと増えてほしい。保護者が園生活を感じられたり、一緒に参加したりできるとよい。(文化祭や縁日、ハロウィンなど)
- ◎日常の写真をプリントアウトしてもらえ、どのように過ごしているかわかりやすくなった。

<要望>

◎保育について

- ・保育参観で、音感教育を参観する機会があるとよい。
⇒3年間に一度は見る機会を作るように計画している。
- ・登園時、安全上心配な時もあったので、玄関で子どもを迎えてほしい。
- ・玄関で、先生達が笑顔で迎えてもらえると、親も安心して送り出せる。
- ・お迎え時、日頃の子どもの様子を一言でもいいので聞くことができると、安心できる。
⇒いずれも、実践できるよう心掛けていきたい。
- ・保育室に行く機会があまりなかったので、保育参観などで普段の保育室での様子が見たい。
⇒保育参観の内容や流れなどを検討したい。

- ・安全や健康について、幼児期の成長はそれぞれ違うので、もう少し配慮を考えてほしい。
⇒一人一人の発達を踏まえ、子ども達に寄り添いながら援助しているが、一層の配慮を意識して保育にあたりたい。
- ・体操服の下にブラウスを着たまま活動するのは動きにくいのでは？脱いだ方が思い切り動けるのではないかと思う。
⇒天候や気温、機能性等という視点から複合的に検討していきたい。
- ・すいせん組でも、連絡帳を継続してほしい。
⇒園での様子を発信できるように心掛けたい。
- ・長期休業期間中、連絡帳があった方がよい。
⇒取り入れていきたい。
- ・昼寝は、せっかくできた生活リズムが崩れるのでやめてほしい。特に、年長は必要ないのでは？
⇒健康管理を考慮して休息という観点から取り入れており、ご理解をいただきたい。

◎行事について

- ・運動会の日が小学校と被り、両方見られなかった。できる限り被らないようにしてほしい。
⇒考慮はしているが、複数の小学校の年間計画との兼ね合いもある点をご理解いただきたい。
- ・運動会の日を9月はまだまだ暑いので、10月に時期をずらすなど検討してほしい。
⇒以前より少しずつ遅くしてきているが、他の保育との兼ね合いも考慮しつつ配慮したい。
- ・運動会に未満児も参加してほしい。・未満児の「ミニ運動会」に保護者も参加できるとよい。
⇒未満児の「ミニ運動会」の在り方について、検討し直したい。
- ・お遊戯会は人数制限がなかった分、かなりたくさんの方の父兄や親族が集まった。開場時間を学年で分けるなど対策が必要だと感じた。
⇒検討していきたい。
- ・お茶会は、両親で参加できなかったのが少し残念だった。
⇒状況に応じて、両親の参加を検討していきたい。
- ・兄弟がいる場合、以上児の行事がある時に未満児を見てももらえると助かる。
⇒検討していきたい。

◎「すぐーる」等のアプリの活用について

- ・クラス毎に毎日その日の活動を保護者と共有している園があるので、より有効な活用を考えて情報発信をするとよいのではないかと思う。・メール連絡ができるよう検討してほしい。
- ・電話以外の連絡手段がほしい。・保護者側からの発信ができればよい。
⇒よりよい発信方法や伝え方を模索していきたい。
- ・子どもの様子は、HPや写真の方が伝わりやすい。
- ・園生活について、HPの更新頻度を増やしたり、動画を掲載したりしてもらえると子どもの様子がわかって嬉しい。
⇒新年度から、高頻度で園児達の様子を捉えて画像アップを実施してきており、引き続き情報発信に努めたい。

◎給食について

- ・手作り弁当の日が年間計画としてわかっていると助かる。
⇒新年度から、手作り弁当の日数を「毎月一回」から「2か月に一回」に変更することとした。

◎その他

- ・お遊戯会の「うれしいひなまつり」の音源を新しい物に変えた方がよいと思う。
⇒長期にわたり使用してきた伝統ある音源であるが、より近い重厚な音源が見つければ変更して採用したい。
- ・予め見やすい席が予測できるので、お遊戯会の時の子どもの立ち位置を教えてください。
⇒急な欠席等で立ち位置が変わることもあり、対応は難しいと思われるものの、検討事項としたい。
- ・マーチングのお披露目会の出欠確認の連絡が遅く感じた。仕事の休みの調整もあるので早めに知らせてほしい。
⇒保護者の皆様が余裕をもって準備できるように心掛けているが、むつみ会とも連携を図り、より一層配慮していきたい。
- ・遠足の写真の仕上がりがよくなかった。なくてもよい。
⇒新年度から、取り止めることとした。
- ・写真に日付をいつも入れてほしい。

- ⇒集合写真は検討する。販売用の写真は設定上、難しいと思われる点をご理解いただきたい。
- ・駐車場で、車と車の間で子どもの傘が車に当たるのが気になる。
 - ⇒お互いに気を付けるよう、重ねて注意喚起を発信していきたい。
- ・駐車場で祖父母による送迎時、逆走や白線から大きくはみ出した駐車が気にかかる。
 - ⇒重ねてお便りで発信するとともに、家庭でも祖父母の方々に伝えてもらうようお願いしていきたい。

保育教諭の『人権擁護のためのセルフチェック』の結果を受けて

- ・昨今、県内外の保育施設で幼児虐待事案が大きな社会問題となったことを受け、本園では昨年度より全職員を対象に、保育を行う上で必要な“子どもを尊重する”ことや“子どもの人権擁護”について各自が改めて意識を高め、あらゆる活動を振り返ることを目的として『人権擁護のためのセルフチェック』を実施した。これを無意識のうちに“子どもを置き去りにした保育”や“保育者の都合ですすめる保育”を行っていないかの自己点検の機会として、保育の質の向上を目指してきている。
- ・昨年度同様、実施に当たり、人権擁護の視点から「『よくない』と考えられるかかわり」を以下に示す5つのカテゴリーに分け、各チェック項目に照らして振り返りを行った。

【カテゴリー：「よくない」と考えられるかかわり】

- (1) 子ども一人一人の人格を尊重しないかかわり
- (2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ
- (3) 罰を与える・乱暴なかかわり
- (4) 一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり
- (5) 差別的なかかわり

- ・令和5年度も本園では保育教諭一人一人が『教育・保育要領』に示された内容に基づく保育者としての基本を踏まえた上で、自分の実践を振り返って課題を見出し、目標と計画の下に改善を進めてきた。そうした振り返りを基に、今回の『人権擁護のためのセルフチェック』の結果と併せて、今後も各保育教諭の主体的な自己研鑽から教育・保育内容の質的向上から園全体として目指す教育・保育理念の具現化を進めるという方向性を確かなものとしていきたい。
- ・各保育教諭が園児一人一人を丁寧に見取り、把握した心身の様子や状態を共有した上で支援や活動を進めるなど、保育者同士の連携による適切でスムーズなクラス運営や学年運営の実現が図れた。
- ・長期にわたるコロナ禍の下では様々な制約がある中でも、多くの保育教諭が園児一人一人との関わりを大切に、丁寧に寄り添いながら成長を見守ろうと努めてきた。また、保護者との情報交流や相互理解を深めようと工夫したり、迅速な対応や連絡ノートでの細やかなやりとりを心がけたりしたことで保護者からは概ね好意的な意見が多く寄せられた。昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行以後も、各種たよりや連絡ノート、ホームページ、「すぐる」等の情報伝達ツールを活用し、家庭と園との情報交換や心の交流を進めていきたい。

令和5年度 『人権擁護のためのセルフチェック』振り返り 回答（抜粋）

R6年3月 実施

<子どもを尊重する保育のために>

「振り返りシート」から

- ・セルフチェックは、自分自身のこれまでとこれからの言動を振り返る大切な機会になっている。毎年実施することで、次年度も気を引き締めて保育に務めようという新たな気持ちが生まれてくる。
- ・チェックリストを通じて、「こうしたことも子どもへの差別的な関わりに当たるのだ」と気づかされた。日常の保育活動の中で何気なく見落とししてしまいそうな項目もあり、今後意識していきたいと思った。
- ・日頃から子どもに対して肯定的な言葉掛けをしているつもりだが、自分に余裕がない時や自らの正義感が正しいと思い込んだ時等、「～してはいけない」と言ってしまうなど冷静さに欠ける言動になることがあると感じた。
- ・自分の態度や言葉が、意図せず子どもを傷つけてしまっているかもしれないと考えさせられた。保育の経験を重ねた今は、よい事とそうでないことが分かるようになったが、振り返ると経験の浅い頃は子どもの人権にまで十分に考えが及んでいなかったこともあったと思う。
- ・一人一人の家庭環境の違いや性に関する考え等については、時代の変化に合わせ対応していかなければならないと思う。自分の考えだけで物事を決めず、情報の収集や共有を通して多様な考えがあることを踏まえて柔軟に対応していきたい。

- ・子どもの思いを尊重するよう配慮はしているが、考え方や感じ方等はその子が置かれている環境によっても異なる。何がその子にとって最善なのかを、子どもの成長や発達に応じて考えていくことが必要だと感じている。
- ・子どもの人権も大切であると同時に、関わる大人のメンタルヘルスも重要だと思う。今後も職員間で協力しながら保育者としての思いや願いを共有し、チームとして保育を進めることを大切にしていきたい。
- ・改めて子どもの立場になって、考えるようになった。一人一人をより大切に保育しようと強く思った。
- ・自分の保育中の言動を振り返り、よくない行動をしていないか、どう関わるべきかを再認識することで、これからの保育をもっとよりよいものにしていきたいと思った。
- ・集団行動の場面では、その子の困り感に寄り添いながら、言葉がけに気をつけたり支援のあり方を工夫したりするなどについて考えていく必要があると感じた。

(1)「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり」について

①自らのよい点

- ・子どもが保育者から投げかけられて嬉しい言葉、嫌な気持ちになる言葉を日頃から意識して子どもと関わるよう心掛けていたが、咄嗟の場面になると（例、かみつき、押し倒すなど）つい、された側の子どもを守ろうとする気持ちが前面に出て行動していたように思う。トラブルには、必ず原因があるので一人一人の思いを尊重した関わりができるよう努力したい。
- ・子どもの気持ちに寄り添い、“どうしたいか、どうなりたいか”を言うことや考えることができるように関わっている。
- ・子ども同士のトラブルがあった際、見ていないことに対しては、想像や思い込みで判断しないようにしている。
- ・保育の子どもが多い為、忙しい保護者の気持ち、少し寂しいと感じる子どもの思いを受け止めながら楽しく生活できるよう心掛けている。
- ・子どもが傷付かないような言葉掛けや肯定的な言葉掛けを考えて接するよう努めている。
- ・トラブルや失敗も子どもにとっては経験の一つであると捉えるように意識するなど、マイナスの中にプラスを見つけるよう心掛けた。
- ・排泄や汚れた際の着替えでは、常に他の子どもの目につかない場所で行うような配慮に努めた。
- ・一人一人の育ちや性格などを考慮して接する中で、子どもが思いを伝えやすい雰囲気をつくるように努めている。
- ・相手の存在を認める事を大切にして、中身のある丁寧なコミュニケーションをとるようにした。
- ・子どもから話し掛けられた時には、その時に聞くよう心掛け「聞いてもらえて嬉しい」「また話したい」と思ってもらえるような対応をしている。

②自らの改善すべき点や目標

- ・友達に対して危険な姿や迷惑がかかる姿があった場面では、「諭す」という気持ちでかわり方や伝え方を工夫することが大切である。
- ・配膳では、「こぼす」からあとから配膳のではなく、どうすると「こぼれない」のか体験から、その術を身に付けていくことが望ましいと考える。
- ・給食のデザートを最初から配膳すると、甘い物を先に食べることで食欲が増して食べる意欲に繋がる。自分で食べたいものを選んで食べることも大切にしたい。
- ・子どもはもとより、保育者同士も相互に尊重し合うことが子ども同士の関係づくりにより影響を与えることを実感した。
- ・絵画表現の指導は難しく、できるだけ子どもが描いたものを認めようと思っているが、「教える」ことも大切ではないかと考える。「違う」と否定することはなかったものの、再度描くよう促すことは子どもの思いを否定することと同じなのだ気付いた。今後は、思いをじっくりと聞き取りながら指導を進めたい。
- ・子どもの呼び掛けにすぐ対応できないことは、多々ある。「今忙しいから」という言葉は使わないものの、「～してからでもいい？」ということはある。子どもに確認を取った上で必ず関わるようにもしている。すぐ対応しなければならないことには即対応し、子どもの力に任せることができる場面では必ず行くと伝えていくようにしたい。
- ・トラブルになりがちな子どもの保護者には、よい点をたくさん伝えることと併せてトラブルの状況も子どもの思いを踏まえて知らせてきた。一方で怪我や嫌な思いをした子どもの保護者には、数回は事後のことを話したものの、その後の様子を十分に伝えられていなかったと反省している。
- ・まだ完全にトイレが一人で成功できない子に対して、定期的にトイレに行くように促していたが、もう少し優しく誘うような言葉で伝えればよかった。
- ・子どもの要求に対して、忙しさを理由に「後からにしてね」と言うことがあった。「保育の引き出し」を増やし、余裕をもって保育に向き合うことで、子どもへの対応のもたつきを解消したい。
- ・子ども一人一人ひとりの行動を肯定的に受け止め、その行動には何かしら理由があることを認めて自己肯定感が育っていくようなかかわりを今以上に考えていきたい。

(2)「物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ」について

①自らのよい点

- ・複数担任制のもとで、できる限り個々の子どものペースに合わせた保育を進めることができていると思う。
- ・自分が仕事を抱えていても、子どもには関係ないと思って行動しているつもりである。心構えによって出てくる言葉は違っていくのではないかと思う。
- ・「～しないなら～できないからね」ではなく、「～したら～する」からみんなで協力してやろう、という言葉掛けをしてきた。注意する時になるべく「ダメ」と伝えるのではなく、して欲しいこと、「～しようね」と伝えるようにしている。声のトーンやボリュームにも留意していかなければならないと感じている。
- ・物事を無理に強いたり怖がるような言葉掛けは決してしないよう気を付けた。また、褒めたり励ましたりするような言葉掛けを意識した。これからも子ども達を大切に、思いやりをもって接していきたい。
- ・言葉で伝わらない年齢の低い子どもには、表情やジェスチャー等でこちらの思いを伝えるようにした。
- ・子どもと接しながら積極的に言葉を通したコミュニケーションを図り、子どもとの関係性を育んだ。
- ・子ども達への言葉掛けには、十分気を付け、優しく言葉掛けるようにしている。
- ・子どもの思いを受け入れ、共感するようにしている。

②自らの改善すべき点や目標

- ・個々に援助が必要な子どもには、保育者が側に付いて一緒に行動したり、周りの状況に目を向けられるような援助が必要だと思う。特に未満児は、発達段階の差が大きいので個への配慮が必要だと思う。
- ・担任という立場上、時には強く伝えなければならないこともあるが、必ずその理由と保育者の思いを伝えるようにしている。伝わる言葉を選び、心に寄り添いながら伝えていくことが大切だと思う。
- ・必要以上に子どもを援助するのではなく、自発性を育める言葉掛けもしていきたい。
- ・危険を察知した時、咄嗟に動いて子どもを驚かせたり、危険が生じそうになったりしないように気を付ける。

(3)「罰を与える・乱暴なかかわり」について

①自らのよい点

- ・子どもへの援助に戸惑った際等には、他の保育者にサポートを頼むなど、保育者同士で相互にフォローし合うことができた。
- ・保育者の都合で子どもを動かすことがないよう気を付けている。
- ・罰を与えるという考えは全くない。子どもに対して「忙しい時こそ心を穏やかに、子どもに丁寧にかかわろう」と思っている。
- ・保育者相互のチームとしての援助によって、子どもの自発的行動を待ち、その思いをサポートすることができた。
- ・身体的や精神的に子どもが傷つくようなことのないよう、日々努めてきた。
- ・子ども達全体に向かって話す時には、こちらに目を向けてもらえるよう手遊びを取り入れ、なるべく言葉で気づいてもらえるよう心掛けている。
- ・午睡では、落ち着いて眠ることが出来るように配置や雰囲気留意したり、落ち着くようしばらく傍に付いたりするよう努めた。
- ・他に迷惑をかける言動や危険な行為には真剣に注意するが、手を出すことや言葉の暴力は決して行わない。
- ・子どもの感情が高ぶっている場合には時間をかけて落ち着かせ、安心できる状態にするよう心掛けた。
- ・嫌がる子を無理やり排泄や着脱等に誘うのではなく、自分で行けるよう言葉掛けを工夫しながら促すよう心掛けている。

②自らの改善すべき点や目標

- ・危険な行動を止める際や誘導時にも、腕を掴んでしまわないよう自らの行動に留意している。また、そっと背中や肩を押して自発的に動くよう促す程度にしていくこと等、機会を見て保育者間で共通理解している。
- ・子ども達を並ばせようと腕を掴んでしまったことがある。早く並ばせたい思いが乱暴なかかわりになりやすい。言葉が伝わらない年齢の子は、体に触れることが多いと思うが、触れ方も乱暴にならないよう注意していきたい。
- ・子どもに対して発する言葉や行動に責任をもたなくては、と思っている。
- ・子どもを注意する時に大切なのは、向き合って伝えていくことだと思う。自分が感情的にならないように気を付けていけないといけなない。

(4)「一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり」について

①自らのよい点

- ・クラス内でその子の状況や対応等を保育者間で共通理解し、相談して適切な対応をするように心掛けた。
- ・日本語があまり話せない子に対しては、母国語の単語やイラストを用いてかかわることができた。
- ・子どもが「保護者の迎えが遅い」や「保護者が忘れた」と言うことが多々ある。おうちの方がお仕事を頑張って

おられるということを伝えたり、忘れ物をおうちの方のせいにはばかりしないことを伝えたりし、子どももその家庭の一員としてよりよい生活が送れるよう配慮している。

- ・未満児は、うまく話せなくても大人の顔色、表情、言葉遣いでその場の雰囲気は感じているので、特に家庭の話は十分注意している。
- ・保育時間が長い子にとって、不安を安心に変えて一日を過ごすことができるよう保育者が連携を図るようにした。
- ・子ども達の家庭環境を知り、その家庭に応じたかかわりや援助を心掛けている。また、朝の視診を大切にしている。
- ・お迎えが遅く不安な表情が見られる子には、安心できるよう一緒に遊ぶなど楽しい雰囲気づくりを心掛けている。

②自らの改善すべき点や目標

- ・園生活は、幸せな家庭生活へのサポートであると考え、保育者としてそれぞれの家庭・家族の立場に立って、寄り添った対応をしていきたい。また、否定的な言葉や不快に感じる言葉を口にしないよう気を付けたい。
- ・不安、甘えを子どもなりに行動や表情で様々に発信するが、取りこぼしてしまった子どもの思いもあると思う。保育者同士の連携の充実から、取りこぼしのないよう改善を図りたい。
- ・家庭環境や一人一人の育ちは違うことをしっかりと頭に置いた上で子どもの育ちを受け入れ、家庭と連携しながらかかわりたい。
- ・保護者によっては、余裕のない方、忘れ物などした場合に責められていると感じる方等、様々だと思われる。どのような連携の取り方が最善なのか考えながら、保護者へのお願いや伝え方を工夫していきたいと思う。
- ・保護者に話をする際には、内容にかかわらず周りの他の保護者に配慮した場所での対応することや、話し方・伝え方等にも心配りをしている。
- ・昨今の社会情勢を見据え、保育者に求められる個人情報扱いについては、厳しく自身を律していきたい。
- ・子どもだけでなく、その保護者に対しても温かい言葉掛けやかかわりを通して保護者支援に努めていきたい。

(5)「差別的なかかわり」について

①自らのよい点

- ・自ら食べる量を決められるよう様々な量の汁物やおかず等を用意した。本人が減らしてほしいと言える雰囲気を作った。また、自分で食べられる分の皿を自分で持っていくように支援した。
- ・“一人一人に個性があり、それぞれに合わせた支援や指導が必要であること”を意識してかかわるように努めた。
- ・食事の安全の観点から、アレルギー児の座席を保育者側で決めていた。工夫はしていたが本人は物足りない思いをしていたように思う。その都度、言葉で「命を守るためだよ」と分かり易く伝えてきた。
- ・早朝保育での受け入れは、必ず子どもの名前を呼んで受け入れている。
- ・どの子にも明るく笑顔で接している。
- ・差別したり比べたりするようなかかわりや言葉掛けは、決してしないようにしている。個性や個人差があっても個々を尊重し同じように接しており、今後もそのようにしていきたい。

②自らの改善すべき点や目標

- ・色々な人、様々な考えがあるのは当たり前のことである。互いを認め合い、助け合い仲良くしあう姿を担当保育者の連携し合う姿で伝えたい。
- ・自分の先入観から「この子はこういう子だ」と決めつけてしまうことがないよう、子どものすてきな姿を沢山見つけて保育者間で情報共有ができる場を意識的に設けていきたい。
- ・「男の子」「女の子」という言葉は、注意ではなく励ましや褒める時に使ったことがある。男だから女だからというのは差別になってしまうのだとしっかり認識し行動していきたい。
- ・保育者が子ども一人一人を受け入れることで、子ども同士も認め合えるようにしていくことが大切だと思う。
- ・どの子に対しても積極的にかかわり、それぞれを知ってありのままを受け止めた上で寄り添っていきたい。
- ・どうしても手のかかる子に支援が偏りがちだと思う時があるが、全体に目を向けることを大切にかかわりたい。
- ・多様な考えの存在を認め、多様な角度から物事を見るように意識を高くもたなければならぬ。

《令和5年度 施設関係者評価 集計結果一覧》

回答者 8 名

R 6 年 5 月 実施

	評価項目	A	B	C	D	E
1	本園の教育・保育理念に基づき園が運営されているか	100%	0%	0%	0%	0%
2	園の状況を踏まえた教育・保育目標等が設定されているか	87.5	12.5	0	0	0
3	園の教育課程の編成・実施の考え方について、教職員間の共通理解がなされているか	75.0	12.5	0	0	0
		無回答 12.5				
4	幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、個々の教職員が理解しているか	100	0	0	0	0
5	指導計画の立案と実施が適切になされているか	100	0	0	0	0
6	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った乳幼児の発達に即した指導がなされているか	100	0	0	0	0
7	乳幼児の病気やけが等の情報提供が行われているか	100	0	0	0	0
8	日常の健康観察や疾病予防のための取組、健康診断が実施されているか	100	0	0	0	0
9	避難訓練等を通して、教職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取組がなされているか	87.5	12.5	0	0	0
10	特別な支援が必要な幼児のための施設や学校の利用者との交流が図られているか	75.0	25.0	0	0	0
11	園と医療・福祉などの関係機関との連携がなされているか	87.5	12.5	0	0	0
12	職員会議、ケース会議等が定期的に行われているか	100	0	0	0	0
13	園内研修が定期的に行われているか	75.0	25.0	0	0	0
14	園外研修に参加しているか	87.5	12.5	0	0	0
15	自己研鑽による職員の資質の向上が図られているか	75.0	25.0	0	0	0
16	自己評価が行われているか	62.5	37.5	0	0	0
17	園に関する様々な情報提供(園便り、参観日等)が行われているか	100	0	0	0	0
18	園独自の保育体制や行事(宗教的情操教育、音感教育、マーチング活動等)が行われているか	100	0	0	0	0
19	子育ての支援(延長保育、一時預かり等)が行われているか	100	0	0	0	0
20	遊具、玩具、絵本等が整備されているか	87.5	12.5	0	0	0

【評価】 A…十分達成されている、B…概ね達成されている、C…どちらでもない
D…取組がやや不十分である、E…取組が不十分である